

みっつの“わ”

R.7. 1月号 No.9

河内長野市立長野小学校
支援人権部発行

2025年がスタートしたと思ったら、もう1月も終わりです。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」という言葉が昔からあるように、この時期は時の流れがとても速く感じられます。学校では、その学年の大事なまとめの時期です。「あ～、もう終わっちゃった」とならないように、一日一日大切に過ごしてほしいと思います。



情報処理の仕方にもタイプが！

わたしたちは、日頃いろいろな情報を頭の中で処理をして、理解をしています。その時に、どのような処理の仕方をしているのでしょうか？大きく分けて「継次処理」と「同時処理」の2通りの処理の仕方があります。その違いを説明するのによく例に出されるのが、新しい場所に行くときの方法です。「改札を出て右に曲がり、2本目の筋を左に曲がってまっすぐ歩き、右に郵便局が見えてきたら…」と、道順に沿って説明された方が分かりやすい人は「継次処理タイプ」、地図を見せられたらすぐに位置関係を理解して行ける人は「同時処理タイプ」と言われます。

継次処理タイプ



右に曲がって、
二本目の筋を
左に曲がって

情報を時系列で一つひとつ順を追って分析的に処理をするタイプ

特徴を考慮した指導法

- ・ 段階的な教え方
- ・ 部分から全体へ、という方向性
- ・ 順序性を重視
- ・ 聴覚的、言語的手がかりを重視
- ・ 時間的、分析的要因を重視

同時処理タイプ



こう行けば
いいんだな。

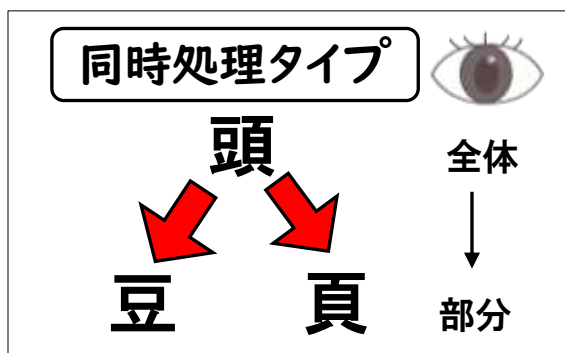
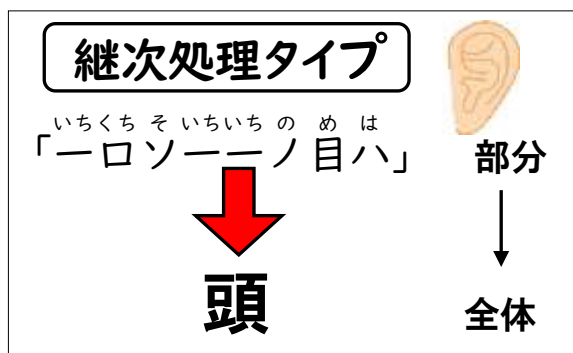
情報の関連性を中心にまとめて
並列的に全体的に処理するタイプ

特徴を考慮した指導法

- ・ 全体を踏まえた教え方
- ・ 全体から部分へ、という方向性
- ・ 関連性を重視
- ・ 視覚的、運動的手がかりを重視
- ・ 空間的、統合的要因を重視

継次処理と同時処理のどちらの方法でも処理できる人もいます。大なり小なり両方の処理の仕方をしながら理解している人が多いと思います。しかし、どちらかの処理方法に偏っている場合は、処理の方法にあった指示の出し方や教え方でないと、わかりにくく理解が難しくなってしまいます。逆に言えば、自分の処理の仕方に合った方法で学ぶと勉強がはかどるということです。

例えば、漢字を覚えるときに、「筆順が無茶苦茶なんです。何度言っても正しく書けません。」といった相談を受けることがあります。もしかしたら、このお子さんは、同時処理タイプで、漢字を図や絵のようにとらえて記憶する方法をとっているために、筆順通りに書いて覚えていく継次処理の仕方は苦手なのかもしれません。その場合、あまり筆順にこだわらず本人が覚えやすい方法で学んでいけばいいと思います。ただし、同時処理タイプでは、絵のように全体を大まかに覚えているために、細かい部分に目が行っておらず、1本線が抜けたり、多かたりしてしまうことがあるので、書き誤っている場合、間違い探しのように、どこが違うかを見つけさせるのもいいでしょう。



九九を覚えるときに、唱えるだけでは覚えるのに一苦労する子どもたちがいます。1（いち）4（し）7（しち）など音のよく似た数字があるために、21、24、27が出てくる3の段では言い間違ってしまうことがよくあります。唱えて覚えるは聴覚的なので継次処理を使っています。同時処理が強い場合は、縦と横軸があってマスに書かれた九九表を見ることで、数の仕組みも見えるので視覚的に記憶していきやすくなります。

人にはそれぞれ情報を収集したり処理したりするときの優位感覚というものがあるといわれています。視覚、聴覚、体得などがあり、自分が優位な感覚をメインに使うって勉強すると効果的です。

① 視覚タイプ

チャートや文字などを見たり読んだりして覚えることが得意なタイプです。教科書をよく読んだり、自分でメモを取ってノート作りをし、それを何回も見たりして勉強するとよいです。

② 聴覚タイプ

音声によって情報を覚えることが得意なタイプです。語呂合わせなどして声に出して暗記することも効果的です。繰り返し聞くことでスムーズに勉強ができます。

③ 体得タイプ

実際に体験することによって学習が進むタイプです。座学より、博物館に行ったり自然観察をしたりするなど、体得することができます。「習うより慣れろ」という言葉がありますが、繰り返し見本通りにやってみることで、いろいろなことができるようになるでしょう。



自分の情報処理のタイプや優位な感覚を知ること、学びやすさにつながる、できないと思う前に、情報処理にあった方法ではないのかも考えてみて、支援することが大切だと思います。